

令和五年一月吉日初版作成

真の祈りは神自身がする

高嶋善三郎

## 目 次

- 人間が神の子なのに、なぜ悪や不幸が生じたのか・・・3
- この世に悪や不幸をなくするには・・・4
- 真の祈りは、神自身がする・・・4
- 今を真剣に生きよう・・・6
- 常に自分の想念を浄めておく・・・7

### お 願 い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブ・サイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、「感想があれば、お聞かせください。次の連絡先にお問い合わせ致します。

（携帯）090-3346-0019

（メールアドレス）[zensan@peach.ocn.ne.jp](mailto:zensan@peach.ocn.ne.jp)

## 人間が神の子なのに、なぜ悪や不幸が生じたのか

人間が神の子であり、神が完全円満ならば、なぜこの世に悪や不幸が生じたのか。またどうすればこの世に悪や不幸がなくなっていくのか。

『続宗教問答』101を参考に整理してみましよう。

この問題は、非常に根本的な問題である。

質問のこの世の悪や不幸ということは、人間の想念が、そうした波を捉えている限りは消えないのであり、そうした波を神のみ心に投げ入れた人からは消え去ってしまうのであり、その人が真実に神のみ心に飛び込むか、飛び込まぬかによって、この問題が解決するわけであり、これは理論上の問題ではなく、実際行為の上において答えの出る問題なのであると言われています。

そこで、実際行為を確信して実行できるよう、重要なポイントを整理しておきましょう。

●人間神の子とは、どういふ存在なのかということをはっきり認識していないと、この問題を解くことは出来ない。人間は霊であり、肉体

はその一つの現われであって、神の生命の法則を自由に操って、この現象の世界に、形の上の創造を遂げてゆくものであると識り、神我一体観、自他一体観を行動として表現してゆく存在なのである。

●光一元の世界には闇がないと同様に、闇一元の世界で光の存在がない場合には、闇はそれ自身闇であることを自覚することはないが、ひとたび光がそこに放射され始めると、光と闇との区別がはっきりしてゆく。そして光が前へ進むにつれて、闇は自身の姿をそれだけすつ、削り取られてゆく形になるのである。

神がその光線を地球界に働きかける場合には、どうしても地球界と同じような物質体の肉体人間を必要とする。

ところがこの肉体身というのは、地上界に属する物質なので、地上界的な性質をそれ自体が持っているので、神の光が地球界の闇を進んでゆくとつれて、未開発が開発されてゆく過程において、種々様々な動揺や変化が起こってくる。言い換えれば、人間がこの地球という物質世界に、肉体という衣を纏って生活するようになってからは、どうしても肉体的自己保存ということに重点が置かれ、競争心や争いや恐怖や恨みや怒り嫉妬などが生じてきたわけである。

即ち本来の人間が神の光の側にあるにもかかわらず、反動的に考え、

かえって自身を闇の側に置いてしまい、闇の崩れゆく姿を自身の崩れゆく姿と同一視してしまったのである。

### この世に悪や不幸をなすのは

では、この世に悪や不幸をどのようにしたら、なくしていけるのでしょうか。五井先生は、次のように言及されています。

●この世の悪や不幸は、実は実体ではなく、私達が過去世から現在に至るまで私達が発した誤てる想念（神に通じない想念）が現われて消えてゆく姿で、それに把われないければ、別の言葉で言い換えれば、消えてゆく姿が自分だと捉えなければ、光となって消えてゆくものである。それ故、消えてゆく姿に把われないようにしていけばよい。

そしてそのことを理解するためには、本心を開発し、個生命の永遠性、つまり人間は永遠に死なないもので、種々の階層において生き続けてゆくものであり、すべては神の慈愛のみ心によって、指導されてゆくものであって、悪などというものは真実存在するのではないという真理を知ることである。また守護の神霊の存在を信じることが大事である。そしてそうした守護の神霊の一大集団が救世の大光明として、世界平和を祈る

人々、国々の上に輝きわたり、地上天国実現の大きな役割を果たしておられるのであることを心に銘じて感謝することが大事なのである。」

ところで、消えてゆく姿に把われないようにする方法で示された内容についてどのように考えればいいのか。もう少し考えてみましょう。

それは、自分について生命の本質の世界に繋がっている自分と、肉体頭脳知識や頭脳に残っている体験で知る自分、即ち真実の自分と現われの自分があることを知ること。真実の自分は、元々愛一元の大調和した世界に住する神であり、この地球の肉体界に地上天国を実現するために、霊界、幽界を通して降りて来ている永遠の存在であることを自覚すること。そして自分の身の前に現われている悪や不幸は、神の慈愛のみ光によって消えてゆき、それと同時に大調和の世界が現われてくるためのプロセスの現象であることを確信することではないでしょうか。私達のその天命が完うされるように、導いて下さる存在が守護の神霊であり、守護の神霊の一大集団が救世の大光明であり、それらの恩恵に常に感謝していくことが、大事であると、言われているのではないのでしょうか。

### 真の祈りは、神自身がする

本心を開発する上においても、また消えてゆく姿への把われを手放し、それを光に還元することを有効にする上においても、祈りを深めることが大事です。そのためには祈りを正しく理解し、実行することが必要です。そこで、祈りについて、『白光誌』2023年1月号「今を真剣に生かしてゆく祈り」を元に主要点を整理してみましよう。

●肉体界の人間は、この肉体界を真の世界平和にする天命をいただきながら、常に肉体界という限界の中に思い悩み、憂い悲しみ恐れて、天の本体との間を絶え間なく業の波でへだててしまい、悪と不幸を生じて苦しんでいるが、守護霊、守護神は、肉体人間の天命を完つさせするため、日々業想念を浄め、導いてくださっている。その浄めのために力をさかれ、大きな浄め、世界人類救済のほうに全力を出し得ない状態に置かれている。

●祈りというのは、自分の生命を言（の）り出すこと。「私の生命は神と一つである。神の生命なのである」という宣言が祈りなのである。自分の肉体頭脳が祈るのではなく、宇宙神に向かって、直霊分霊が「私はあなたと一つです」と宣言するのが祈りなのである。肉体を動かしている生命と、宇宙に充滿している生命との合体が祈りなのである。人類の

平和をお願いするのではなく、平和であると言宣する。平和の祈りが宇宙神と一体となり、地球を覆う迷いを光で消すのである。生命と生命が結びつき、宇宙神と直霊一分霊が結びつき、神の力がそのまま流れてくる。真の祈りは、神自身がするのである。本当の祈りは強いのである。

●肉体側のこちらからも、世界人類の平和の祈りをする。その祈りは、天の本体（直霊）や守護神、守護霊と等しき祈りになるので、その瞬間は肉体をつつむ業（汚れ）は一挙に突破されて真我一体となるのである。今の一時、一時をこつした大乗的祈りにしてゆくことこそ、神の生命を生かし切って、真の世界平和の到来を促進させることになる。

●人間の本体は光明燦然たる神様である。その真理を知って、人類を救いたい、という大菩薩心を起こして、神様がよく働けるように、守護霊、守護神につながり、世界と日本の平和をひたすら祈ることである。そうすれば、不安はなくなり、不動の心になって来る。どんな苦しみが来ても、この大乗の祈りをしている人は、していない人よりも、心の底は安心しているので心に余裕があって、苦しくとも気が楽であり、苦しみが終われば、魂は素晴らしく飛躍するのである。

●肉体界の自分がすべてを天の本体（直霊）もしくは守護霊、守護神にまかせきった空（くう）の状態であれば、自分の直霊、守護霊、守護神は、

もてるすべての力を世界人類救済の浄めのために出すことが出来る。  
祈りとは、肉体を動かしている生命と、宇宙に充滿している生命との  
合体を意味し、それにより地球を覆う迷いを光で消し、真の世界平和の  
到来を促進し、成就することになるといふことでしよう。

### 今を真剣に生きる

五井先生は、過去への扱われは、今を真剣に生きれば、自ずから消え  
てゆくことを教えてくださっています。

「今は何か。私の言おうとしている今は、現在の時間的今ではなく、  
天地縦横、永遠につながっている今である。過去世も現在も未来もすべ  
てを含んでいる今なのである。今を開けば永遠がその中にあるのである。  
故に今を真剣に生きれば、それは空になり、空の中にはやはり永遠の  
生命が生き切っている。私達の生命のひびきは空からひびいてくるので  
あり、永遠の生命からひびいてくるものなのである。」

今に真剣であるということは、過去世を現在に生かして、現在を未来  
に生かし、神の永遠の生命を輝かすこととなるのである。

今が永遠につながっているものと、信じて自らの想念、行動を今の一

瞬、一瞬に生かしてゆくものは、輝く神性の具現者であり、栄えある真  
我一体の完全な人間像を築き上げ得るのである。例えばかに悪しき過去  
世をもつものであると、今を生きたことに真剣であれば、過去世の悪  
行は善行に転回されて、生かされてゆく。故に今の一分一秒はゆるがせ  
にできない。今を無駄に消費することは、生命を殺し、死なせているこ  
とになる。

心の栄養になること、魂にプラスになることを真剣に考え、今を生か  
してゆかねばならない。人間の生命など刹那的なものだ。過去なんて、  
未来なんてない。だからその刹那の生命をなるべく楽しむことだ。とい  
って、五感の快樂にふけてしまっただけは、それは空虚なのである。そう  
した行為は生命をけする悪業である。神を宿す今と、業の今との見分け  
が大切である。前者の今を生かし切れば、遂には仏となり、後者は空虚  
であるから、永遠に悟れず、己の魂を枯死させていく。」

永遠につながる今とは、どのような理解すればよいのでしょうか。

この肉体界三次元の世界と高次元の世界は、波動によってつながっ  
ているのです。私達の波動を高めていけば、五次元の世界に行けるので  
す。また肉体を保持すれば、五次元の世界の自分をこの三次元の世界に

現わすことが出来るのです。高次元の世界には、時間という概念がないのです。破壊と創造が同時に行われる世界なのです。ですからこの三元の世界と高次元の世界は、今という概念でしか繋がっていないのです。今を真剣に生きるとは、自分の波動を高め、喜びに満ち、心が命じらるまま自由自在に己の才能を駆使しお互いに戻り合う、愛の次元の世界に上昇することになり、過去の誤る想念が存在できる低い波動圏は必ずと光の中に消えてゆくことになるのです。

### 常に自分の想念を浄めよう

真の祈りを実践していく中で、わかって来ることがあります。それについて二点紹介します。参考になれば幸いです。まず本心を開発するには、常に自分の想念を浄めようです。少しでも、不安、恐怖等の想いをもってしまつと、その想いに感情がこの地上に浮遊している不安や恐怖を引き寄せることになります。自分の身の周りには、自分の怒りや悲しみや苦しみをもとに、私達を評価しようという人たちがいることを見逃してはならないのです。その人たちの意見や評価を無意識のうちに受け入れてしまつと、その評価に

コントロールされてしまいます。特にマスコミ等による私達への評価を受け入れてしまつと、神の子としての力を発揮できなくなるのです。そして誤る想念が現われて消えてゆく姿を目の前にして、把われてしまうことになるのです。何故そうなるかをというと、本心(神性)の働きを理解していないからです。

本心は、私達の選択と注目に従って瞬時に動く(実現させる)という真理があり、相手の自分への評価を無意識でも受け入れてしまつと、その言葉にコントロールされてしまつのです。一方自分が発した言葉(言)通りに本心は、動いてくれるのです。

そこで、宇宙神の光を自分の意識に降ろした時、いつも「他人の怒り、悲しみ、苦しみを手放します」と3回となえ続けると、周りの人たちの言動による影響は受けなくなり、それに比例して自分に降りてくる光は強くなるのです。

第二点目は、消えてゆく姿を世界平和の祈りの中に入れていくということについてです。

まず、真の祈りについては既に五井先生の解説の中で、言及しているところがありますが、それをスムーズに実現する方法です。

祈りの中に入り、消えてゆく姿を光に還元することは、簡単なように考えられますが、実践してみると、なかなか消えてゆく姿はスムーズに消えてゆかないと感じられる方は意外と多いのではないのでしょうか。それは真の祈りについて十分理解していないため、消えてゆく姿への扱われが手放されていないからです。自分の意識では、神の光の方に向けているつもりでも、消えてゆく姿のほうに想いがいき、結果的に消えてゆく姿が消えてゆかないのです。つまり、自分の意識が横回りしてしまいい上に縦回りして神の光の中に入っていき出ないからです。

これを解決するには、本心の働きにたより、五井先生や守護の神霊に向かって「この消えてゆく姿を神に捧げます」とお祈りすることです。そうすると、守護の神霊が支援してくれたり、消えてゆく姿を手放すことができ（すべてを神のみ心に委ねることができ）、それを本心が受け取って光に還元してくれるのです。

「こので、仰々しく」捧げると「この言葉を使うのは、消えてゆく姿は、肉体人間として苦労して得た体験であり、一種の」宝もの「であり、それを」神に捧げる「という言葉によせて、肉体人間としての意識（扱われの意識）をも捧げる」という意味をも含めるのです。その肉体意識を捧げる「この」より、消えてゆく姿への扱われを手放すことができ、本心の

中に入ることができ、光になって消えてゆくのです。

直観力を取り戻すための方法として昌美先生から示された祈りや日頃の自らの想念のあり方である、「すべての物事について原因結果だけでなく、一瞬一瞬のプロセスにも愛を注ぎ、感謝を注ぎ、否定的想念や言葉は、死語にしていく」こともスムーズに実践していくことができますことに気がきました。

一方五井先生が、消えてゆく姿をもったままでもいいと言われているのではないかと思っておられるかたもおられるでしょう。

そこで、消えてゆく姿をもったまま神の光に入れるかについて、整理しておきましょう。

多くの法友とともに、祈ることにより、強力な光が降りて来ている時や、日々の祈りにより、神の光の中に入ることを習慣化している場合、消えてゆく姿をもったまま神の光の中に入ることが出来ます。

日頃から、スムーズに神の光の中に入る練習をしていると、消えてゆく姿で苦しんでいる方の手助けをすることも可能になります。

ですから、日頃から、真の祈りを理解し、いつも自分の想念を浄めておくことが、大事だといえます。